

世界遺産クルーズ！ トゥバタハリーフ・クルーズ乗船レポート！第5弾



フィリピンで一番最初に世界遺産に登録された
トゥバタハリーフ。

パラワン島の南、約180キロに位置する。

季節風の影響のために、潜れるのは

コンディションが安定する3月中旬〜6月中旬。

太平洋の生命の根源と形容され、

3万3200万ヘクタールにも及ぶ広大な海域に

300種類のサンゴや380種類の魚類が生息する。

Tubbataha Reef

Photo&Text **Yasuaki Kagii**
Special Thanks **World Tour Planners**
Design **Sana**☆

GWはトゥバタハリーフ・クルーズに決まり！

美しい夕焼に染まるダイブクルーズ船

01/みんなでディンギーに乗り込んで、いざダイビングへ！ 02/総天然色の美しい海中世界が待ち受けている

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Web-lue 2010. Winter



Information Link

<http://www.wtp.co.jp/area/tubbataha/>

← 関連情報HPへ

最初の2日間は、 North Atoll (ノースアトール) で レッツダイブ!

フエルトプリンセサを出港して、約10時間で世界遺産・トゥバタハリーフに到着した。まずは、ふたつある環礁の大きい方のノースアトールでのダイビングから始まる。チェックダイブを兼ねて、1本目のダイビングへ向かう。「Overhang Cliff」という砂地とリーフが混在する穏やかなポイントにエントリーした。サンゴも元気で、リーフフィッシュも活発に泳いでいる。年に3ヵ月しか潜ることのできない貴重な海でのダイビング4DAYSが始まった。



01



02

02/足の踏み場もないくらい元気なサンゴ礁が永延と続く



03



04

01/透明度の高い海に吸い込まれそうになる
03/ドロップオフにはカラフルな腔腸類が群棲している
04/アカネハナゴイの群れが仲良く集う

2 本日は予定していたダイビングポイントの「Shark Airport」に複数のボートがすでに向かっていたので、予定を変更して、「Sea fan Alley」に向かう。40mまで落ち込むドロップオフの地形が待ち受けていた。壁沿いに進んでいくと、ウミウチワやイソバナが連立する。そこにメラネシアン・アンティアスやオオテンハナゴイ、フレーム・エンジェルフィッシュが群れる。トゥバタハリーフで見られる定番の景観。ウミウチワの大きさや形状が様々で、畳一畳のサイズや、ソフトコーラルとのコンビネーションが美しいものもある。カメラ派には、絶好の被写体でもある。ダイビングの後半には、ギンガメアジの群れが現れた。これからどんな生き物との出会いがあるのか? 期待はどんどん膨らんでいく。

Tubbataha Reef

GWはトゥバタハリーフ・クルーズに決まり!

Web-lue 2010. Winter

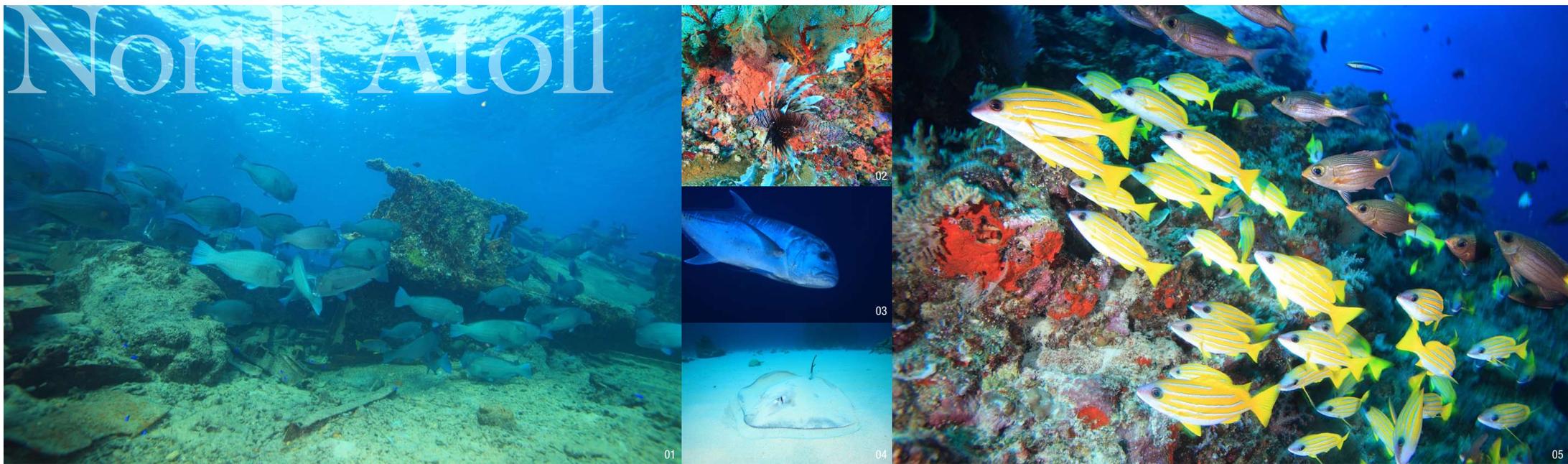


Information Link

<http://www.wfp.co.jp/area/tubbataha/>

関連情報HPへ

North Atoll



マantaが出現しているというので、3本目に「Shark Airport」へ向かう。エントリーして、心地良い潮の流れに乗りながら進んでいくと、ホワイトチップシャークが、次々に現れる。うまく潮の上手で待っていると、かなり接近することができる。大人しいサメだとはわかっていても、野生溢れる視線は少し迫力があり少々動揺する。外洋では、ツムブリやウメイロモドキの群れが泳ぎ去る。残念ながら、マンタはもうひとつのグループだけが見ることができたが、いつ現れてもおかしくない期待感を抱いて、ダイビングを楽しむことができた。

翌日の1本目、2本目は「Malayan Wreck」でのダイビング。浅瀬に座礁している沈船は、魚たちの住処になっている。エントリーして沈船に向かっていくと、なにか大きな魚の影が見えた。よく見ると、それはカムリブダイの群れだった。まるで沈船でたむろしているように、大きなオデコを振り振りして食事している様子。あまり接近することは出来なかったが、朝一で彼らに会えたことはとてもラッキーだった。そして、リーフまで泳ぎ、ドロップオフを流していく。途中、オオメカマスの群れなどに遭遇、タイマイも呑気に泳いでいる。美しいサンゴの

上には、フレーム・エンジェルフィッシュがごちゃごちりと群れている。どこまでも美しいサンゴ、豊かなマリンライフが続いていた。

- 01/ 沈船ポイントの「Malayan Wreck」の前にカムリブダイが群れる
- 02/ 鮮やかな舞台でハナミノカサゴが舞う
- 03/ 接近されるとドキドキするロウニンアジ
- 04/ アカエイの仲間を砂地で発見する
- 05/ ヨスジフエダイが海底を彩る
- 06/ 急接近をするネムリブカ
- 07/ 沈船ポイントの「Malayan Wreck」

毎日、色々な景色が展開していく！
マンタ、沈船、サメ、カムリブダイの群れ！
まるで海中はパレードのよう！

Tubbataha Reef
GWはトウバタハリーフ・クルーズに決まり！



これまでにトウバタハリーフで
撮影した大物たち!

North Atoll

初 めてトウバタハリーフ・クルーズに乗船した年、ジンベエザメとの遭遇に恵まれた。ジンベエザメは私たちダイバーの周囲を泳いで、私たちにまるで「遊ぼう!」というような仕草で一緒に泳いでくれた。本当に素晴らしい出会いだった。今回(2010年)、私たちの船はジンベエザメに会うことができなかったが、他の船では、出会いがあったそうだ、羨ましい……(笑)

そ の翌年は、数枚のマンタに遭遇した。また水面で捕食しているマンタとは、スノーケリングを楽しむことができた。マンタはジンベエザメよりも、会える確率は高いようだ。トウバタハリーフは、このように大物との遭遇も叶えてくれる。

01/いつもジンベエザメとの出会いを夢みてエントリーする

02/接近しては、身を翻して泳ぐマンタ



02

Tubbataha Reef

GWはトウバタハリーフ・クルーズに決まり!

Web-lue 2010. Winter



Information Link

<http://www.wtp.co.jp/area/tubbataha/>

← 関連情報HPへ



01



South Atoll

South Atoll (サウスアトール) で 魚群と戯れる!

最初の2日間は、ノースアトールでダイビングを楽しみ、3日目からは、サウスアトールに移動した。1本目に潜ったポイント、「Delsan Wreck」は本当に素敵なポイントだった。エントリーして、壁沿いに進んで行くと、リーフの上にならず、オオメカマスの群れを発見。なかなか見応えのあるサイズで、ナイフのような鋭い姿態が海の中できらめいている。その無数に飛び交うナイフの隙間から、また違った魚群が見えた。なんとギンガメ

ジがまるで、急速に発達する夏雲のように青い海に大きく膨らみ始めた。おまけの表現をすると、所謂、ギンバラ状態（ギンガメアジとバラクーダの群れが同じ場所にいる様子）。オオメカマスの群れを突き抜けて、ギンガメアジの群れの前に仁王立ちになる。どんどん向かってくるギンガメアジの群れは、私の存在など気にすることなく、私をバクリと飲み込んだ。「やっぱ、ダイビングはこうじゃない!」と途中で何度もつぶやく。その後もグループのみん

なで、ふたつの群れの撮影を楽しむ。その後は、ゆっくり泳ぐタイマイに付いていくと、いきなり、赤いソフトコーラルを「がぶり」と食べ始めた。楽しい出会いが水中で連鎖していた。

01/豊かなサンゴの上で群れるギンガメアジの群れ

02/鋭いナイフのようなオオメカマスの群れ

03/赤いソフトコーラルを食べるタイマイ

04/それほど美味しくはなさそう…



03



04

Tubbataha Reef

GWはトウバタハリーフ・クルーズに決まり!

Web-lue 2010. Winter



Information Link

<http://www.wtp.co.jp/area/tubbataha/>

← 関連情報HPへ

朝早くから3本ダイブ！ 最終日もトゥバタハリーフを満喫する！

最終日は、翌日のマニラまでのフライトが午前10時過ぎなので、早めのスケジュール進行で、3本のダイビングを行った。朝、5時45分に起床して、6時30分にはエントリー。ポイントは、「Delsan Wreck」で、狙いはハンマーヘッドシャーク。もうすっかり明るくなったドロップオフに向かって潜降していく。水深22mくらいを進んでいく。昨日、他のクルーズ船の情報では、水深30mあたりを2匹のハンマーヘッドシャークが泳いでいたのを目撃したらしい。目を凝らして、少し濁った青い海の先を探してみるが、なかなか見当たらない。10分ほど経過して、ギンガメアジの群れが登場した。水深30mとやや深め。ドロップオフの壁を見上げると、グレイリーフシャークが泳いでいるが、トンカチ頭のサメは見当たらず。そのまま深度を上げて、リーフの上のオオカマスの群れと遊

び、豊かなサンゴ礁の上を流していく。

残念ながら、ハンマーヘッドシャークに出会うことはできなかったが、ブルーウォーターダイブは、十分に冒険心をくすぐられる体験となった。その他の「South West Wall」や「Staghorn point」などは、壁沿いには豊かなソフトコーラルやヤギが群生していた。中層では、ムレハタタテダイやウメイロモドキの群れが泳ぎ、華やかな雰囲気が満載だった。そして、イソマグロやカスミアジの編隊、ロウニンアジが虎視眈々と餌を求めて徘徊している様子をよく目撃した。また浅瀬は、サンゴ礁がとても豊かで、いつまでもこの美しい姿のままでいて欲しいと、願わずにはいられなかった。最後まで、ガイド陣とゲスト一同は大物を狙っていたが、今回は残念ながら見ることはできなかった。次回に期待！



オレンジ色のソフトコーラルの前を泳ぐヤマブキスズメダイ



リーフ沿いには、チョウチョウウコショウダイが群れる

ドロップオフに群れるムレハタタテダイ



01

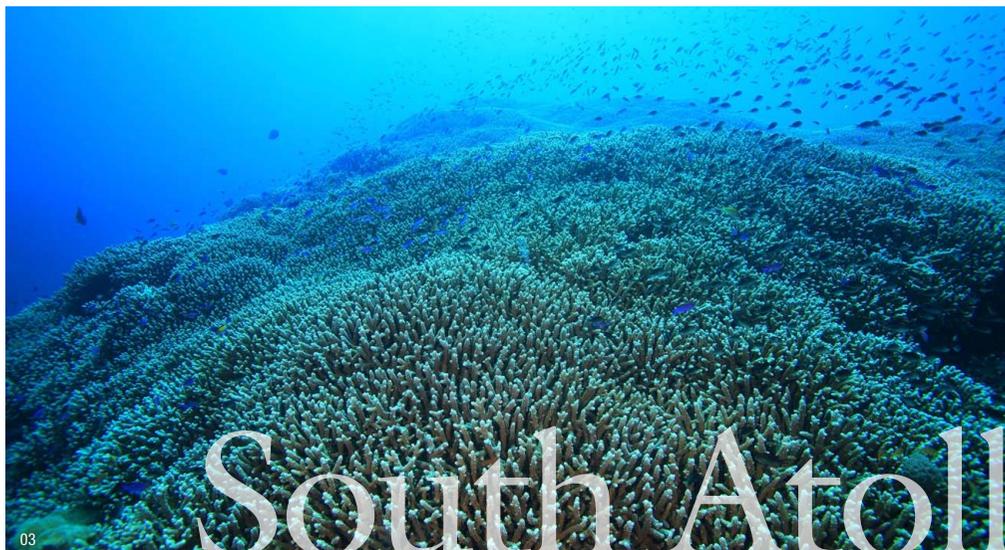
01/世界自然遺産の海を満喫してポートに戻るゲストダイバー

02/中層で群れるウメイロモドキの群れ

03/「Staghorn point」のサンゴ礁は見応え抜群



02



03

South Atoll Tubbataha Reef GWはトゥバタハリーフ・クルーズに決まり！

Web-lue 2010. Winter



Information Link

<http://www.wtp.co.jp/area/tubbataha/>

関連情報HPへ

Macro in Tubbataha



マクロの生き物だって、
ワイドの景観に負けないくらい
カッコイイ&かわいい！

- 01/今回、トゥバタハリーフで出会った魚の中でも、特に美しかったイレズミフエダイ
- 02/捕食の機会を伺うナポレオンフィッシュを激写！
- 03/ペンシルのようなアオマスク
- 04/体色を変えて捕食を続けるフエダイの仲間



Tubbataha Reef

GWはトゥバタハリーフ・クルーズに決まり！



Information Link
<http://www.wtp.co.jp/area/tubbataha/>

← 関連情報HPへ

トウバタハリーフに住む マクロの生き物も見所満載！

トウバタハリーフでは、チョウチョウウオやベラ、クマノミ、キンチャクダイなど鮮やかな魚たちが優雅に泳いでいる。今回、マクロの生き物でまず驚いたのは、イレズミフエダイ。サウスアトールの「Delsan Wreck」や「South West Wall」で15匹ほどの群れになり泳いでいるのを確認した。水深10mくらいの浅い深度で見ることができた。それほど神経質な様子もなく、静かに近づけば、撮影できる距離まで近づけさせてくれた。少し深場の25mくらいには、スミレナガハナダイやアオマスクが見ることができた。ふたつとも目立つ体色なので、水中でも簡単に見つけることができる。また、フィリピンブレニーもリーフの至るところでたくさん見つけられた。

今回、改めて感じたことだが、ワイドの視点ばかりで水中を見渡していると、なかなか気づかないが、リーフの表面は実に様々な色のカイメンやホヤが付着していて、撮影するときに良き背景になってくれる。カメラを持ったダイバーは、気になった魚を見つけた時、少しは背景にまで気を使えば、より素敵な写真が撮影できると思う。撮影するタイミングとしては、魚が食事をしていたり、クリーニングされているときが良さだろう。

また、トウバタハリーフはナポレオンが実に多い。おでこの出た大型のものではなく、まだ30cm超くらいの若魚ばかり。その若魚たちは、食欲旺盛なのか、いつも岩の隙間の獲物を狙っていることが多い。そんなときは、スーッと近づいて「パシャ！」と至近距離で撮影することができる。他にも、フエダイの仲間などはカスマアジと共同で捕食するシーンなどもあり、そんな時はありえないくらいに近い距離を許してくれる。1ダイブがおおよそ50分。豊かなサンゴの景観を楽しみつつ、マクロの生き物との出会いも忘れずに。

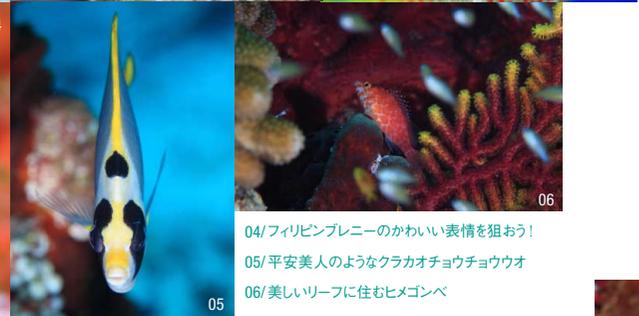


Macro in Tubbataha



魚が湧く海なので、こんな撮影も可能

01/かわいくて、フォトジェニックなクマノミの家族
02/笑っているようなウミウシ
03/アズキハタのデザインに注目してみた



04/フィリピンブレニーのかわいい表情を狙おう！
05/平安美人のようなクラカオチョウウオ
06/美しいリーフに住むヒメゴンベ

07/お花畑のようなリーフの表面
08//可笑な顔をしたカイメンの集合体



Tubbataha Reef
GWはトウバタハリーフ・クルーズに決まり！

Web-lue 2010. Winter



Information Link

<http://www.wtp.co.jp/area/tubbataha/>

← 関連情報HPへ

楽しいクルーズライフ。 記念ダイブや誕生日、 気さくなスタッフ&クルーと 修学旅行のような時間を過ごす。



日本人好みの料理が並ぶ

クルーズの基本は、潜って食べて、寝る。口癖は「こんなに食べちゃ、太ってしまう……」。トゥバタハリーフ・クルーズも完全にこのパターン。3度の食事はbuffetスタイルで、お肉、魚料理、スープ、ご飯、デザート、フルーツなど盛りだくさん。日本人好みの味付けで、食事は、ダイビングと同じくらい楽しみとなる。また、ちゃんとおやつ時間もあり、ダイビングの後は必ず、美味しいものが準備されている(デザートは、甘いものが多い)。

ダイビングスケジュールは、日中に4ダイブとナイトダイビングが用意されている。一度クルーズ船が係留すると、基本的には、その日はディンギーボートでダイビングポイントまで往復することになる。1日4本～5本のダイビングも無理なく、時間に余裕を持って行うことができる。そして、クルーズ船は、スルー海の洋上にあり、360度水平線となる。朝日も夕日も海から現れ、消えていく。そんな素敵な時間を迎えつつ、ダイビングと食事、休憩に、ゆとりがあるので、なんとなく時間を贅沢に使っているような気がする。それがまた嬉しい。

レンジャーステーションには、クルーズ中に一度、立ち寄る。そこでは、Tシャツやステッカーなどのお土産を買うことができる。デザインもカッコ良くて、ゲストにはかなりの人気だった。

今回(2010年のGW)は、お天気、海況に恵まれ、クルーズ船は水面を滑るように走った。大物に恵まれるのは、その時の運次第になるが、世界自然遺産の海を十分に堪能したトリップとなった。

- 01/誕生日や記念ダイブもみんなでお祝い!
- 02/ダイビングの合間にスノーケリングも楽しむことができる
- 03/食事は海の幸&お肉など!

- 04/レンジャーステーションのある無人島に上陸
- 05/レンジャーステーションで売られているお土産
- 06/毎晩、開催されるナイトダイビング



Tubbataha Reef

GWはトゥバタハリーフ・クルーズに決まり!

Web-lue 2010. Winter



Information Link

<http://www.wtp.co.jp/area/tubbataha/>

関連情報HPへ



ゲスト、クルーと記念撮影



水中でも記念撮影!

ゲストの声!

松田峰穂さん

初 めでのダイブクルーズ体験で、素晴らしい5日間を過ごしました。大物では、マダラエイ、シャーク、バラクーダ、マンタ、ギンガメアジのトルネードなど見ることができて、最高でした。良い冥土の土産になりました! トゥバタハリーフ最高!

小泉繁さん

サングの上で、トルネード状のギンガメアジは、なかなか良かった。今回が同乗したゲストにも恵まれ、非常に楽しいクルーズだった。今回、ビール26本飲みました(鍵井さんはビールでは換算できない量のアルコールを摂取していたが……)。

佐藤新ちゃん

あの~400記念を絶対、トゥバタハで迎えたいと思っていました。で、4日間で、全部で18本潜りました。ナイトドリフトは最高でしたね。ゲストの皆さんもみな気さくな方ばかりで、修学旅行のような楽しさでした。鍵井さんと会えたことが、この旅一番のラックでした!

宮尾麻衣子さん

みなさんにお誕生日と400本記念をお祝いして頂き、非常~!!!に嬉しかったです。マンタが見えなかったのは残念でしたが、サンゴもハナダイもキレイだったので、それには感動しました。最後に、次は別のチームに混じらないように注意しましょうね、鍵井さん?

平原寛子さん

今回同乗したゲストさんは、良い方ばかりで、記念ダイブや誕生日のお祝いなどもあり、とても楽しいクルーズでした。海況も安定していて本当に快適でした。サンゴも群れもマンタも、サメも、ホントにたくさんで楽しかったです。

立石和彦さん

ガイドさんが、ゴミ拾いをしたりオニヒトデの駆除などまめにしていたので、それには感心した。船のクルーは愛想が良く、またこのクルーズでも新しいダイビングの仲間ができたので良かったです。

筒井美樹さん

噂通りの素晴らしいサンゴ礁と、そこに集まる魚たちを満喫。特に念願のイナズマヤッコや最近話題のイレズミフエダイにお目にかかることができ、感激でした! 鍵井さんは、肝心な時にトラブルが多くて、笑えた……(笑)。

Tubbataha Reef
GWはトゥバタハリーフ・クルーズに決まり!

Web-lue 2010. Winter



Information Link

<http://www.wtp.co.jp/area/tubbataha/>

関連情報HPへ



お天気にも恵まれ、最高のクルーズでした



暮れ時のロマンティックなクルーズ船

ゲストの声！

諸星ちろるさん

鍵井さんと一緒に着底しちゃいましたね。あ〜あと、飛び込みと水中カメラデビューをしました！

立石牧子さん

世界遺産に登録するほど、すごくないのでは……？大物もあまり見られなかったし……と言うのが正直な感想です。でもクルーズ船はご飯が美味しかったですし、記念ケーキにも驚きました。あと一緒に潜ったゲストの皆さんがとても愉快で、とても仲良くなれました。私は、ある人の恋愛成就のために、足まで負傷してしまいました……。そして、水中カメラマンって高飛車かと思っていましたが、全然違いました……。 (笑)。

武津京佳さん

ソフトコーラルとハードコーラルの両方とも素晴らしくて感動した。オオテンジクザメとマンタに会えたこと、そして、海況が安定していて、波酔いもなく良かったです。鍵井さんとは別チームだったけど、時々別の私たちのチームに紛れていて、撮影する姿を見られたので笑えました……。

山本真幸さん

さすが世界遺産のサンゴ礁は美しかったです。ガイドは親切丁寧で、クルーのみなも楽しく、和気藹々とやってくれました。そのために食事もお酒も美味しく頂きました。前回まではデズタルカメラで撮影していましたが、今回は初めてビデオカメラを持ち込みました。そして素晴らしい魚群を撮影することができました。とても楽しかったです。また、機会があれば、トゥバタハリーフに戻って来たいと思います。

Tubbataha Reef

GWはトゥバタハリーフ・クルーズに決まり！

Web-lue 2010. Winter



Information Link
<http://www.wtp.co.jp/area/tubbataha/>

関連情報HPへ